

繪本豊臣勲功記

六編 貳

遠 13<sup>39</sup>  
2209  
52



特  
遠  
2209  
52

繪本豊臣勲功記六編卷之二

目錄

百姓ひやくしやう太た所しよ助すけ擊き越こ瓜うり秀しゆ吉きち

属しよ秀しゆ吉きち越こ衆しゆ

池い田で高たか山さん争まが山さん崎さき合あ戦せん魁けい

属しよ定じやう魁けい高たか山さん

豊臣本記

光秀安土宴與光俊論武

屬秀吉約戰

光秀泰内奏辞山崎成隊

屬利三陳言



繪本豊后勳功記六編卷之二

江戸 櫻澤堂山 編輯



百姓太師助擊賊凡秀吉屬秀吉懸衆  
齋の韓兄弟が種々凡へ其孝心を感應し々蒸を嘗む  
帮助とあり。朝探暮生の奇致を見たり。又歳の勝兎ハ寒  
麻をとり。母の熱病を治するの不思議晋の桑原が刺棘  
を去る徑を用けバ瓜盜も感涙し。呂蒙正ハ伊水の頭子凡  
と遺られ々鱧凡亭と起立。瓜田の履の制戒も。食皮凡の俊  
廉も。瓜あきバこそ人を教示。天や瓜や都々口申。解正味  
をて人々導き。人の口と用し。善悪と傾ふ。敵らむ。然やふ  
秀吉ハ山崎境へ出軍の準備金々俱備し。これハ當れ。六月

繪本豊后勳功記六編卷之二

ついでに兵を  
洗前百姓  
大郎助を  
頼りて勝  
軍の右指を  
おろす



十二日ハ愉快決戦まじり。と思立り今日ハ既其十日ありける  
 二三日の先天より。諸方の寺社人のいひもさしあり。恩沢被り  
 四の民ハ交々撃贈し。筑前守と慰りまわしを。それかふらふ  
 年の相耳喚と越ゆる野老人の孫とおぼしき壯子ハ。蔓籃三  
 口を擔ちせり。あうあうと涼しげハ飽きを肥ゆる越瓜を。  
 封漚と盛収り。羽柴が陣本の前小来り。棘門と守る賊軍  
 小向ひ吾儕ハ河州若江郡高井田村の百姓中。太舟助と  
 言ま者あり。秀吉さまの所陣所ハ何方ぞと問訊時境  
 秀吉ハ幕張繞せし廻尺の程中。太舟助が言と听し。あ  
 あれ呼容とと啼せけるを。近士一人立出て。太舟助と伴  
 舟前小鶴を筑前守嬉氣ハ。吓驚しや百姓太舟助。道  
 金銀を  
 此も刑を  
 罪なり

と吟せける顔を拜するよりも喜悅の堪へず。吾と忘れく三尺  
 許勝行出。又もく奮来獨見せぬ。急平生。芳思り。あやが  
 今日此在車の軀を拜し。まぐく苦く存トまわす。別  
 て這般上尊。悲命所之。あそをりて。貴將。もさぞ最  
 勇ハ。哀哭。在り。あん。宜もく。備中より。長途の旅の  
 所煩。芳も。あ。清着の。速き。健氣。さ。それ。引替。合儀  
 あ。老来。さ。悲。さ。大將。尊。此城。へ。所着。の。由。と  
 酔。と。その。来。跳起。や。う。強。出。して。心。許。が。急。が。れ。て。筋。ハ  
 些。小。も。役。達。を。其。も。此。も。清。忠。義。一。途。の。清。心。ゆる。い。清  
 速。い。清。着。も。現。又。理。眼。さ。ぞ。右。大。将。尊。の。所。亡。靈。が。清。悦。び  
 遊。を。そ。よ。太。舟。助。も。そ。が。嬉。潤。し。面。の。皺。が。伸。も。の。と。縷。布。の

袖より目を刮り。嘸止り。吁それ小属て大將さまより。毎度  
 所を度了。賜され。黄金をり。討安。田地の虚地  
 熟。越瓜暑穢を汚凌ぎ遊を。滋味あらんと  
 百姓の賤しき意。比働。尊き所。亦も顧む。一番生と強  
 らむ。勇摘所。覽。備。ま。と。篋篋。一持出れ。秀  
 吉。大。歡悦。遠路を厭。炎天。芳。老人  
 の厚き切志。何より。忝。早速賞味。其  
 篋篋の封解放き。最肥大ある瓜を採。短刀掣て割割  
 と割大口開。これと占味。舌合。吁甘奇や。杜子  
 が水晶の寒を嚼も。這瓜を。賞。青門。朱陵も  
 これ。勝。神戶殿。丹羽池田も。各食。暑。避。月

採。下伍輩の駛率。雜兵。至。残。配。存  
 太。助。不。嚮。其。老。亡。君。の。所。恩。と。忘。れ。最。殊。勝。切。志  
 秀。吉。を。感。信。す。即。時。不。恩。賞。ま。さ。あ。れ。も。陣。中。と。い。ひ  
 軍。事。小。間。く。其。上。慾。を。汝。名。軍。勝。利。な。て。后。宜。く  
 沙。汰。し。の。ま。と。懇。切。不。命。せ。ね。太。助。助。歡。涙。と。止。め。あ。ら。ず。秀  
 吉。も。諸。將。も。辞。別。の。し。く。涙。り。ける。  
 大。軍。小。若。江。ふ。お。死。を。其。子。孫。傳。承。た。後。同。郡。岩。田。村。時。不。秀。吉。席。を  
 整。し。諸。將。不。嚮。を。宣。す。被。老。人。へ。先。歳。亡。君。這。國。所  
 出。陣。あり。石。山。本。願。寺。と。攻。む。機。會。鈴。本。計。議。と。あ。る。周  
 て。君。所。危。難。不。逢。せ。む。其。時。太。助。助。合。好。も。君。と。俱。奉。し。ま。ぬ

せく。渠みちが居まゐ宅たく不ふ縣けん一いつより。危あや急まを海うみ幫たすたてまつる。其その獲と賞あづかを賜たまふ時とき不ふ乃すなは丈だけかれを提た賞あづかせり。渠みちが如ごとき百ひゃく姓せいごやも。虎こ口くちの危あや難なんを救すくひゆせ。最と致あつ切せつ恩おん賞あづかあり。然しかる小こ太た師し助すけ少せう欲よく不ふて過あやちの獲と美みと奉ほう生せいわくせむ。新あらた世よの地ちと賜たまふも。其その君きみ恩おんと忘却わすれせむ。老らう年ねんの身みの勞らうを厭いとふ。縣けん一いつもあれ。遊あそ暑しゆの菓くわ味あじを齋い来きりたる切きつ志し感かんする。猶なほ餘あまりあり。これを懐なつふ自みづか他た葉は亡な君きみの厚あつき所ところ捉と起おこふあつる。高たか祿ろくをゆる賜たまふ。須す弥み茶ちや海うみの大おほ恩おんのいそぐ片かた時ときも忘わすれなき。然しかる小こ送きやう賊ぞく明あひ智ち光こう秀しゆ吾われ係か小こ者ものぬ大おほ恩おんと奉ほう。飽あ生せいで立た身み出で顔かほして。唐たう代だいの諸しよ士し。席せきを高たかより。丹たん州しゆ江かう州しゆを願ねがふ。食く足そく亡な君きみの恩おん沢たくあまむ。假か令れいバ主しゆ君きみのいふ。道みちあるや。甘あま良らたるもの。二ふた道みち

練ねんめて身み存ぞんく。いよこれぞ忠ちゆう義ぎの本ほん意いを不ふ却たがく君きみの道みち。義ぎ一いつ主しゆ君きみを執とむ。又また道みちの大おほ賊ぞく禽いん獸じゆう心しんとも夷い狄てきとも譬たとが。か死し道みちを。浩かうく賊ぞく徒た。日ひを同どうく。論ろんを。あらむ。斯す量りやう賊ぞく。き田でん夫ふ。君きみ恩おんの重おもきを。知しる。謝しゃ恩おんの節せつ義ぎを。失しふ。老らうの肝かん弱じやく脚かく歩ぽ。よ。く杖つえ不ふ拄たけれ炎えん暑しよを。凌りやうぎて訊しん来きり。心しんを竭きつせ。越あ氏し。諸しよ軍ぐんの渴かつを治ちす。切きつ志し自みづか方かたの為ため。百ひゃく万まん騎きの加か勢せいより。猶なほ勝かちを。贈くわう呈てい時とき果くわハ微いあり。と。老らう夫ふの節せつ義ぎハ博はく大だいなり。今いま太た師し助すけが受う恩おん。拳けんく俺われ係か身み不ふ較かく。遥ちゆう小こ勝かち。恩おん深しんあり。也や。是これを。り。此こ察さつ。自みづか他た義ぎ兵へいを起おこす。いよ。も。驗けん小こ九きゆう牛ぎゆう。一いつ毛もう。茲こゝ小こ信しん義ぎの集しゆう會かい。を天てん道だうも憐あはれ。玉たま小こや。這こ

遺の軍の必勝を忽然とて告む。各も備へて於つらん。所へ  
 老氏の名一。一言空地不植養一。此を以て。會斬そして贈  
 るとの是捷軍の右瑞あり。於て出陣し。的當敵へ。逆賊明智  
 光秀あり。明地不種生産物を。諸將駛率不至る。生々秀を  
 一。會一畢。驗み。怒歎光秀と。疎り。或く伐捕。或ん  
 びや。明智の原。東土岐光衡が。疏流をわ。時の産物と。裁盡  
 して。諸軍士達。不恰。貴既せ。と。齋來り。一時。不準。て。右  
 系北越。凡一世。不多。をわ。老史の深切。原々。味も。ま。薄  
 く。ま。系法。中も。云。つ。洞あり。夏。の。祠。秋。の。祠。皆。此。を。用。わ。れ  
 へ。今。這。陣。中。も。此。を。以。て。軍。神。を。祠。す。べ。し。先。や。駛。率。不  
 至。る。ま。ま。也。忠。義。の。帶。と。固。め。し。也。片。時。も。早。く。逆。徒。と。退。治。し。

冥途不才。身死。亡君の。清憤を。滅さん。と。を。居。る。輩。の。道。を。之。  
 多。れ。努。め。て。逆。賊。光。秀。を。伐。捉。大。功。を。以。て。因。着。不。輝。し。英。名。  
 を。子。孫。に。傳。へ。し。れ。よ。と。二。軍。と。懋。す。一。締。ら。し。言。語。の。謬。く  
 お。の。つ。ら。う。悠。然。と。て。哀。哭。風。小。憤。然。と。て。瞋。恚。相。の。見。え  
 け。れ。い。と。ま。き。義。小。疏。と。憤。怒。不。過。る。諸。將。達。今。秀。者。策  
 勵。の。こ。と。む。沢。こ。の。け。ま。し。う。忠。心。義。志。と。表。む。る。輩。な。り。躍  
 揚。と。怒。叫。み。拳。と。振り。牙。と。鳴。し。東。の。舌。を。睚。眦。着。く。と。  
 所。今。も。鬱。發。之。氣。色。あり

池田高山。奉。山。崎。合。戰。魁。層。定。冠。高。山

實。小。名。將。の。一。端。事。と。ゆ。く。衆。の。心。を。懋。ま。と。天。然。不。得。し。る  
 智。舌。明。輝。凡。意。の。量。る。と。こ。ろ。不。あ。る。也。秀。不。後。と。て。現。出。せ



他田勝之身信輝ハ故右府殿と乳兄弟ありたり。若  
 所落命と聆りも。怪念肯髓不徹至。直地自勢を  
 跟従系都小馳行。至若所落命の場おちり。自故明智  
 と戦少く。際々戦死あり。日東の受恩を報せんものと其身と  
 甲冑を憤喋しけり。老黨ありける伊東清公。荒尾  
 玄右衛門候丈小練め。ゆりゆり。宥止む信輝。懐懐去方  
 ありれと。理小責られ。胸を鎮め。筑赤守を待。つら。程あり  
 中国より帰軍。一々尾崎小着と聆り。第一番小集命也。  
 魁をく。英々。戦死するこそ切。くもの亡君への報恩をん。  
 と心を決。つ。落髪せられ。勝入。益と法号。く。高嶽の庵小  
 除せられ。故右府在。世の。きり。小。所。竊。電。畏。深。く。く。

柴田丹羽。流川。係より。よ。小。達。く。威。権。も。強。く。寒。門。小。等。く。く。  
 賞せられ。乳兄弟の親好。小。係。より。然。ば。これ。日。の。大。恩。  
 を。報。せ。ら。れ。遠。响。あり。と。高。嶽。の。庵。小。突。と。進。む。他。論。を。待。つ。と。  
 言。發。け。る。や。今。た。き。言。も。辭。怯。不。似。れ。と。過。つ。る。二。日。本。願。寺。  
 の。大。愛。あり。と。聆。り。も。舊。地。小。當。場。へ。馳。行。至。若。の。所。供。せん。の。  
 と。心。を。決。し。つ。不。を。強。く。居。家。小。抑。止。られ。怪。念。を。く。も。止。り。  
 ぬ。這。殺。の。吊。合。致。小。山。倚。境。の。先。陣。を。乃。丈。是。非。小。か。り。  
 け。つ。決。し。て。除。人。へ。讓。る。や。と。望。ま。れ。け。る。と。高。山。右。近。お。り。  
 く。席。と。進。ん。で。曰。く。他。田。殿。の。お。ん。の。ご。と。何。も。も。り。つ。く。意。入。せ。し。  
 先。君。の。由。緒。格。式。の。緒。人。の。上。小。出。玉。小。と。も。先。陣。の。義。小。お。り。の。く。  
 地。の。利。を。精。し。小。せ。ま。ん。が。あ。り。是。導。途。を。第。一。と。て。強。と。破。り。

道を開き自方の二軍と導くかゆふ。地の利と葉肉を專とす。然れど此地の次第を鋭く哨接。播磨高槻より山崎までの経行一里を以て過ぐ。清秀の位茨木より二里あり。これを以て量る。駒の這遣山崎合戦の先陣は是乃丈あり。二陣は中川清秀あり。三陣を以て池田殿の列行を以て順道なり。身不肩あがり高山長房山崎先陣つらつと。地理分明。小解なれど池田入道。播磨の高山殿の言も。條も。至理あり。なれど乃丈は是年終といひ。亡君不捨の大恩を以て。身を蒙り存在。兵切り吊合戦。正魁小進ん。身を粉ゆふ。万魚が一鱗。なれども。謝恩不備。不存あり。播磨先君を。廿一。時信輝を以て播磨の總官とせん。從意と奉り。然れど。

豊下中川。倭の任も廿一。吾の播磨の司あり。これを以て先陣を努めん。俾勿論あり。なれども。勝入。有恩を蒙り。此城へ第一番。馳著し。唯先陣と望まん。あり。其を他人に譲りて。世の外。関ら。其途。其の。大。居殿へ。解。矢の。いら。これ。因。各。二。陣。不。進。す。れ。先。陣。を。是。非。乃。丈。へ。譲。り。む。一。身。口。意。決。し。稟。さ。れ。け。り。清。秀。池。田。ふ。ら。ち。擲。入。入。道。殿。の。吟。す。不。然。切。の。理。不。恥。え。る。べ。れ。ど。織。田。家。の。居。家。自。他。借。不。先。君。の。恩。澤。を。奉。り。し。り。づ。れ。が。輕。く。い。づ。れ。か。重。き。差。別。へ。あ。ら。む。粉。骨。た。り。報。恩。不。備。へ。ん。と。あり。し。諸。將。の。心。中。僉。同。ト。豊。下。へ。由。緒。も。殊。不。親。し。く。清。秀。も。法。々。と。大。録。を。願。し。む。乃。丈。を。以。て。格。別。に。れ。

あすのつちのすけ  
尼寄の城  
中ふ池田  
高山山崎  
の先陣と  
争ふ



とも忠勇信義の道ふおろくハ貴賤高卑の隔なり。別々の  
 撰明總官の詞あつてもおろく承知しごと。所内従ふ君命  
 を奉むふら知らひとも。軍事の機會不足下の指揮と。願受  
 せよこの所遺命と奉听つご。然るれば此般の先陣を他田敵  
 あり譲られず。諸將のづれも先陣を掛念といつご。所縁  
 なければ是と許さば。乃又も快より冠駈せんと存せしご。高山  
 右邊が稟まるところ。理あるとゆつご。二陣も臨まん。足下と陣も  
 進ずるごとも。推うこれを継傍せん。只顧順道不信されご。道  
 理を竭く練められごも。入道嘗て謬らご。迷ふ先を軍しめて  
 双方怒色の見されご。秀吉右と壓宥鎮勝入齋ふ  
 向ふご。口據あき道理あれごも。方僅秀吉が稟まるところと。然

意思惟しむるご。這遣山崎の一戦ハ亡びたる両君の吊軍  
 ありを。唯尊靈の所替憤と。掃除をすまらん。結企しご。  
 其れをまず先陣と。競う戦闘もふ及た。只唯諸將  
 心を一し。逆徒と代ごを専一なれりごも。冠を軍するご。武  
 門の敵と。いひあつご。それごも地の理より。導方まご。任  
 されご。由緒あつご。愜ふご。然りごも。今日の綽論尋常  
 の軍と事變り。亡君所父子の吊養ふ。供饌す。わご。合戦を  
 れご。忠志いご。甲乙ご。只顧自方の諸將。後軍。不志ご。今決  
 するご。勝利を得るご。亡君の吊靈も。稱ふご。それご。其量ふ  
 先陣と。争ひ。心中心へ。故右府の受恩と。謝せんご。必定命と  
 戦場も。棄戦死すご。二君は。はご。泉下の君も。退着。ゆご。さん

所存をんん。本年も應あき血氣の勇。これ真忠の所存あり。
 浪合先君逝去あきも。現在公達もあき。亦所嫡孫も
 事あき。収平安在す。速地不運徒を後。織田家と護立。所幼君も仕へん。先君所父子の所心も
 命之れ。然るも由緒も疎くぬ。織田喬臣の身をあき。一
 途の勇も招りむ。疎忽不戦死あき。都く後世の人の
 胡盧を疎まき。怖く其氣と止す。必勝の利も心を入。
 軍も金忠と思ふ。少人。魁を山右辺不運。是下三陣
 不進も。長房へ高樫の城もあき。他人も魁と駈られ。
 所存もあき。中川も茨木の城主あき。二陣といひ
 一も。理あき。あき。是下へ有恩。花隈を領す。あき。

あき。地の理の次。取足。是。食。順。不。合。ひ。ぬ。れ。が。き。
 陣。綸。あ。き。く。陣。を。決。理。を。綱。一。金。言。小。制。止。せ。
 信。輝。も。実。不。深。味。と。あ。き。れ。け。ん。存。び。強。く。陣。を。
 綱。小。隨。順。一。く。これ。小。因。く。山。崎。合。戦。先。陣。へ。高。山。長。房。と
 陣。定。ま。す。其。勢。武。千。有。餘。騎。あり。二。陣。へ。中。川。清。秀。あ。き。
 其。勢。武。千。又。百。餘。騎。備。三。陣。へ。池。田。信。輝。同。一。子。信。濃。守。信。之
 父子の軍勢も千五百有餘人。四陣へ。惟。任。又。師。九。門。丹。羽
 長。秀。武。千。餘。騎。あり。小。神。戸。三。七。府。侍。信。孝。四。千。餘。騎
 然。一。後。陣。へ。德。大。將。羽。柴。統。秀。守。秀。右。旗。本。の。勢。一。隊
 一。武。万。餘。人。を。結。隊。一。く。又。陣。を。總。く。其。勢。都。合。三
 万。又。千。八。百。餘。騎。將。率。各。信。義。を。守。り。忠。節。を。專。と。せ。

勇兵多ねば其猛多しと尋常を曉起する所相のり  
ある堅甲利兵中て鐵壁城小擬守とも擊破さす見  
えりける

光秀安土宴與光俊論武 秀吉約戰

樂しひうか花上の明月嬉しひうか宴席の美女花月雲と  
風と錢恰くま酒色五酔と醒るとを覺えま達人えを俾ま  
ざんや然やふ明智日向守光秀へ恙あすて將軍小任せん  
京都小在と三日か間公卿をむむい小饗應なりそれより安土へ  
飯んと長閑齋明智十平次光俊が迎誘の船小技乗られ優然  
こゝろ坂本の城小投り觀音寺の城六角八通兼頼を攻陥し然  
しく安土へ入城す。左馬助光俊をくらり隨從呂家を唱

集め彼魁首とる第一の天守千丈櫓の洞廳子花経しる櫃  
を布留瑠璃玻璃珊瑚の肉盤と白銀の碟子黄金の肴碗  
川の鯉の精屠の勇士を参る碎身粉肌赤き配色布須廣  
朝伊勢輒播磨章魚狐小れども牢城の柵を看せしる涙  
路の榮標水晶の箔とらう小列勇れぬ阿波比目魚慈  
野浦の鰯かろく小傍解醒味へ危張薩菘花驛山薑明  
石の藜小紅うすせ涼しく看ゆる白瘦鉢へ鳴門の石蓴高和  
の海雲波流へ丹後の松立潮吉野精流の沙栗麩へ銀河の  
氷も斯やと謎ひ大井川の首釣鮎へ冠駈象小意味をさる款返  
敬とまの菓と餘魚へ尾か崎の産と誇り大和鋤耨の梵天此  
へ軍神とも言がさけれと稻荷山の早松苗へ鏡氣と増の滋薬



ともせられらの山珍海奇の滋味千種万品と交轉安撫するそ  
 ぶみうふ。龍騰虎睛の醜態もあらず、見ゆる上面小鴉磁琥  
 珀の光鑽を乳鸞鸞の蓋鴉鴉海山標もあり。飽子色もあ  
 將翠の屠蘇もあんのりのうへ。避暑虫は是落戸の碧酥蘭蔭  
 の炙酒も及びなき池田伊丹の精醜小鬱金香と浮べし額と  
 解熱醜の醜やそ二八ハ膝首戯眉巧小築小は輔ハ倩兮の壺  
 を含み。美目の貯分ごとく雪間小雲と黠を相あり咸陽宮女  
 の扇少減れど艶百嬌の楚國色ハ辞を狂成る番を勸り。  
 環干調の韓繞梁ハ淫性と濃窓く醜醜を浮驗小嗜沈  
 伎樂小同家一霏の哀色も看ま。今や日本と一口小故着つ  
 す意味し。泡まぐ猛き光秀も。驕く然とく遊戯小淫

漫顔醜やで醜醜あり。飲悦餘りく瘡を突と起。蜂腰鼓掌拍  
 樂女小看指し。口自頼改の梵罽を淫ハ扇をひきき疎踏え。  
 一斥鸞舞とく。胸く席傍小ある光俊が忌とくき穢小懐い  
 れるど。光秀の袴とひき止り。頼弘入道頼圓ハ文道和次ハ  
 達し。れも。武道小疎き大將をねが。遂小本意と果さるそ  
 平等院小自害せり。淫欲も多くあるとの。浩る忌とく曲  
 をり。奏玉小くくんと練めける小ぞ光秀も。當胸くや脚使  
 小音曲撫つ。兵の交りたのとあるあろの酒更らふと細乃  
 曲を聲高らうた。一節を舞細めで本座小帰る。満座  
 飽醉の相見へ。日も黄昏の天ある小ぞ。覆盃してて罷小  
 ける。此用宴ハ六月九日とく光秀 羨小亦明石義太夫忠益ハ。社を

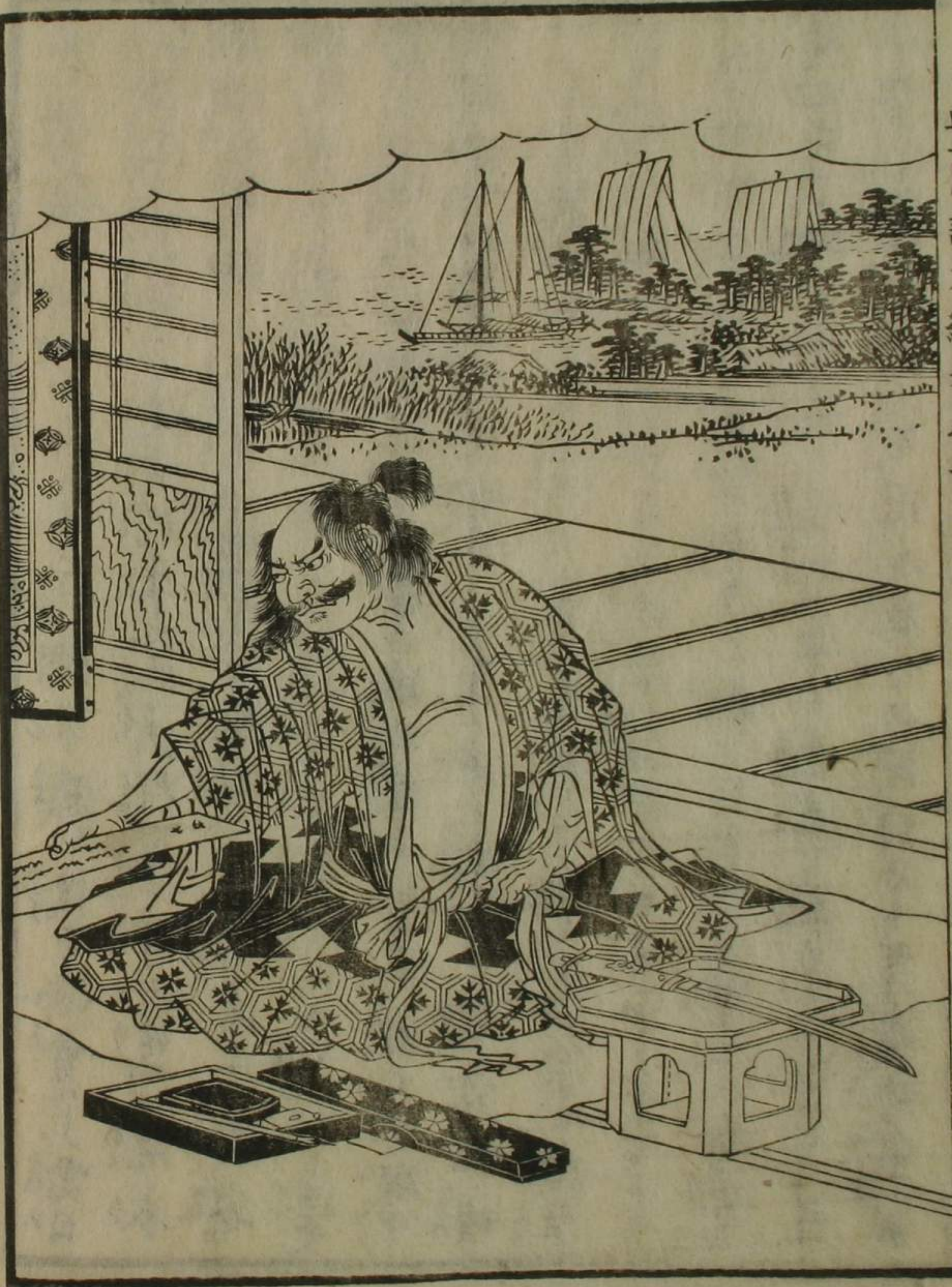


恐く安土にあり。尼崎の賊を備ふ者。身退て深慮する  
 小。秀吉が強運。光秀が運名。決つても這次の勝敗は益々の論  
 と先見申し。遂に故郷の明石に帰る。辞せありとて一首の  
 歌

引取られし月を夏の夜に月

これを光秀が許し贈り。際々生害を以て瀬田の中の番前あり  
 こそ。然るも光秀も斯くの安土にしがごとく安土を左馬助  
 光俊に安土。又千餘騎をよき守らせ。これを河州の堅守とす。  
 其身に諸軍を引率して京都へ帰る。この事いふも細川といひ。  
 信隆といひ。尼崎の伏兵といひ。分備大才想違へられぬ斯くの  
 容易の事ふあり。遠道秀吉との一戦に驗ふ大持ある軍ふ

し。我身の存亡をふあり。と只顧軍慮と機を機會あり。當日  
 六月十日。秀吉より使者到来。即ち打原七舟右衛門荒木  
 軍太史あり。斯く光秀へ通名し。それより客廳へ通名。  
 双方等しく懇懃の式畢りて。后打原荒木。至人の口状と述す。  
 稟す。過天二日本能寺。二条の城。兩場におつ。右大臣殿中  
 將殿。足下の為ふ。神生書。身せし事。定め。其意。極堪  
 が。ごらん。恩。杖。ふ。こと。察。し。ゆ。ま。と。と。ろ。ろ。然。り。と。い。ふ。も。信。長  
 公。足。下。の。為。ふ。も。大。恩。あ。る。未。曾。背。命。の。至。君。あ。る。ご。や。の。ら  
 とも。戦。國。の。世。の。中。お。わ。げ。今。も。敵。と。な。り。も。聖。見。の。自。方。と  
 實。心。を。る。種。々。轉。變。の。境。界。を。ご。る。至。君。と。裁。ま。と。つ。ご。る。い。ま  
 ご。曾。々。其。理。を。聞。る。ご。縱。令。幕。下。の。諸。侯。も。せ。當。時。武。門。の



明石儀大夫故  
郷に歸り義  
死をくふ臨  
る主君へ遺  
頼と贈る

棟梁とて。信長と代りあはせり。是叛逆の戦闘あり。秀吉偉  
 い知らるる如く。大坂殿の意願あり。柳大縁不安身まること。愈  
 亡君の仁惠されば。その君恩を報むる期を。切く九年の一毛ど  
 りと。直地小中圃より取く逆。是下の陣小馳向す。決戦  
 あり。勝敗の運を天小信まききあり。これ不図く戦場と所  
 約束しき。一亡びあひし。所西君の吊合戦なり。是松の  
 軍小あり。然バとも。帝王の所所近き小。就て。炮突鎗刀を  
 揮えんも。上一の忠懐なき小あり。秀吉地境を考め。城州  
 乙羽郡山崎こそ。古來より。の戦場あれ。雙方便宜の地あり  
 う。明智殿小京都小あり。羽柴ハ今是尾崎小あり。兩陣より。の  
 行程 京三条より山崎へ四里  
尾ヶ崎より山崎へ六里也 差し。遠近もあはされ。万端然る

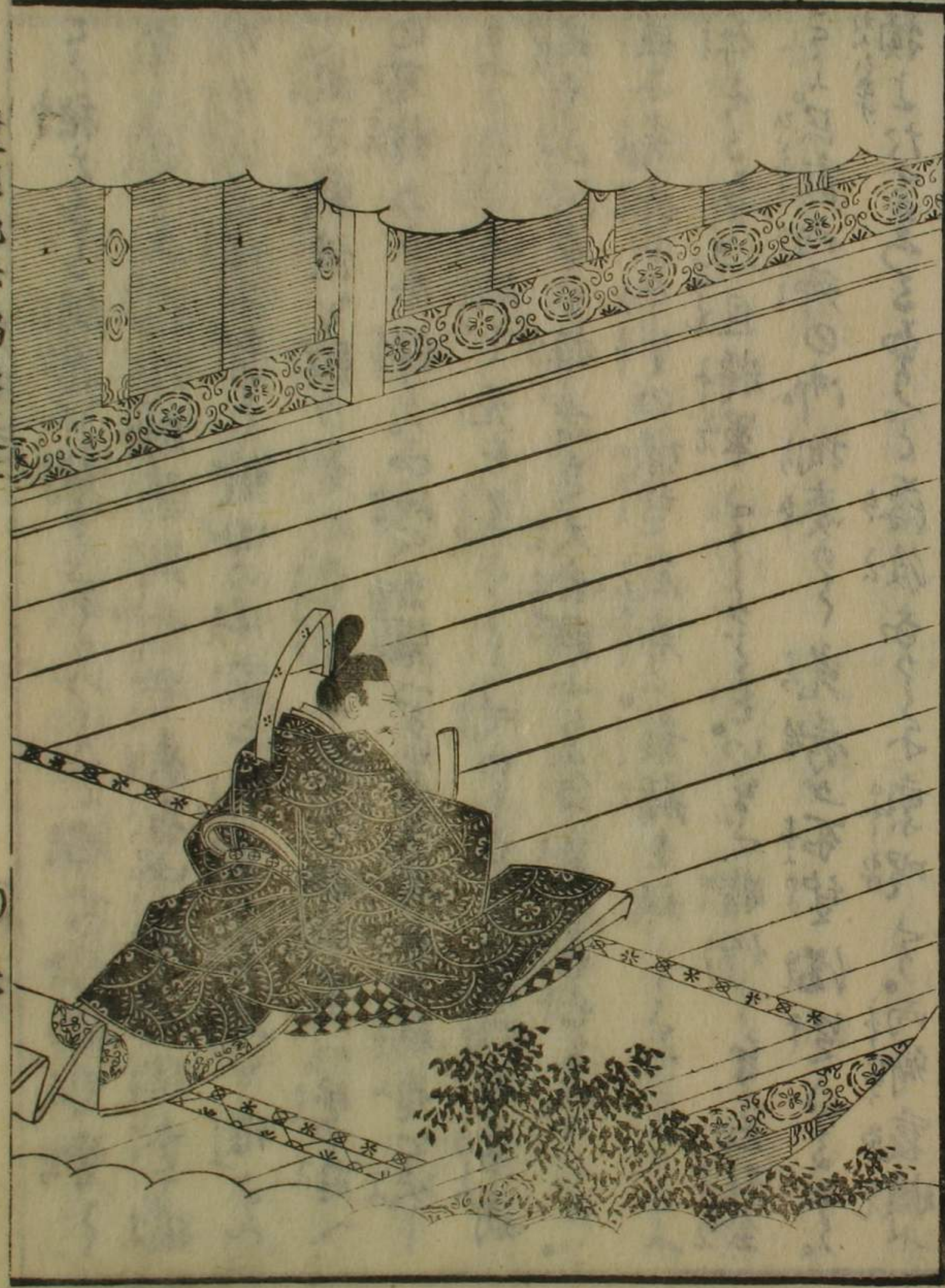
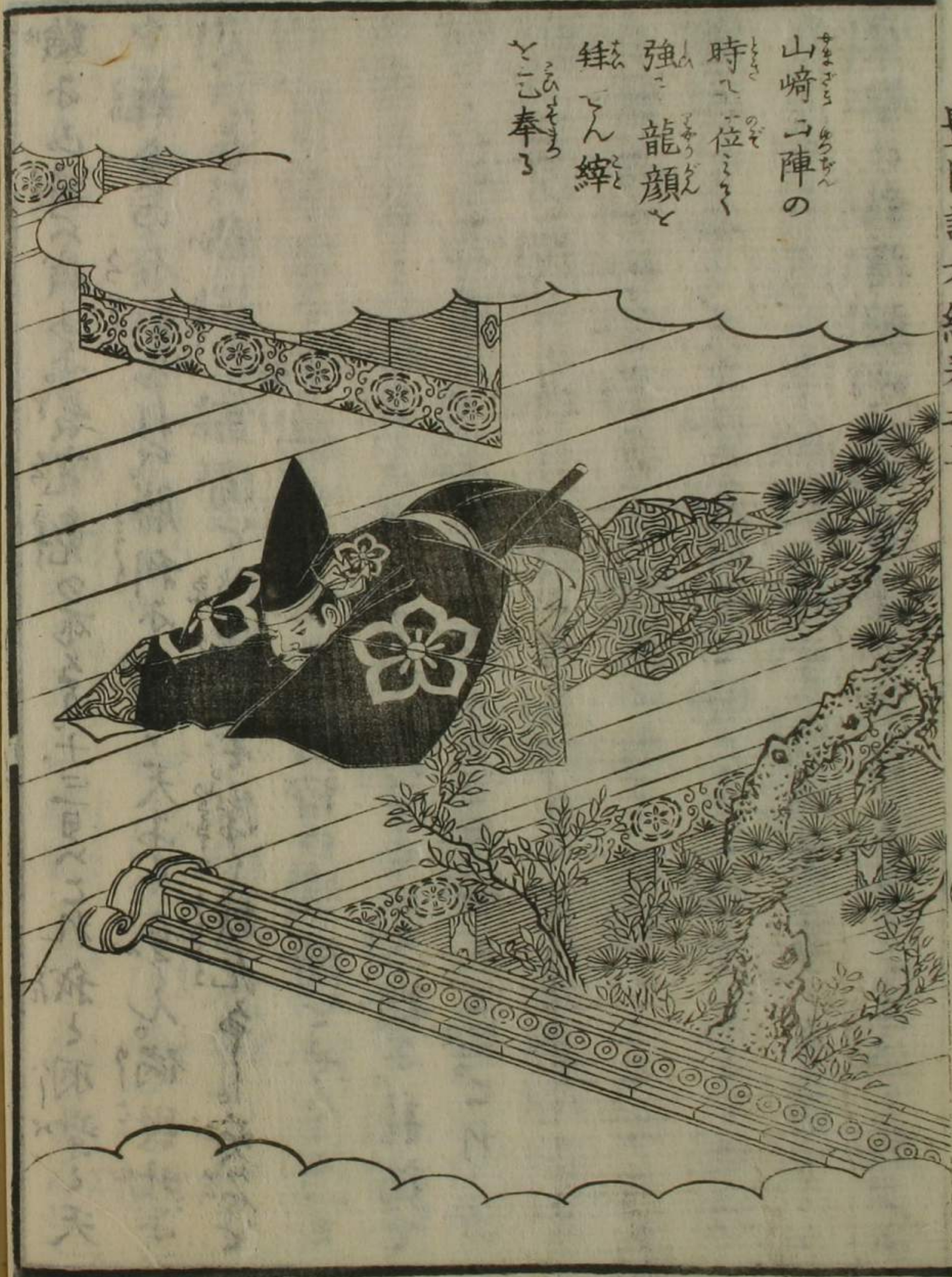
べ小存ざるる。この遠催し。一戦ハ亡君尊靈之報恩の義を  
 重むる。軍をね。決し。奇兵と用ゆる。正兵とあり。明  
 明察小。雌雄と決し。りあま。この條承知あり。きり。其  
 其とも小亦戦場の所不望あり。謙退なく。稟紙さ。づ  
 づきとのあり。兩使詞小巧艶なく。主人の口状と傳説  
 あり。秀吉町寧の使者と。紙さ。口條の如く。乃士右大臣誠  
 害せし。意趣深重。勿く言。語さ。今更ら。信話らんも。未練の解嘲さ。小似。足。下。道と守り。亡君の謝恩。不備。吊合戦。す。その。殊勝。の。其。儀。小



輩ひきも斬らむ。其門と列し、曰ハ伊勢安房守同主水同監物  
 上野筑後守同大學。已上の先將軍。伊藤志摩守。杉原伯耆守同  
 伊織後藤喜三郎。磯野彈正河内法路守同万又部大津甚  
 又部多賀新又右衛門。鳥山主殿助。久徳六左衛門。遠見重久。香川  
 刑部。畑田主馬久。古田権之助。杉本主膳。因八郎。大夫。平田六郎。津  
 按井新左衛門。高橋虎之助。依と叙して。迎國迎師の武家兵門。或ハ  
 五十騎乃至一百に百つ。自將と率て。行列。雲霧の儘く。小来會  
 せり。然バ昨日秀吉より。合戦の巧帖と遣し。され。先秀今ハ所存を  
 究決。先日毛利へ密使。不達。藤田傳八。橋とら。て。害せられ。さ  
 由と聆。亦曰。王天。明石。倭。小構。せ。計略。泡幻。反。誅。悔。む。と。遣し。  
 妙計奇謀。も。是。追。あり。今。明白。小一軍。して。勝敗。と。決。る。外。不。存。存。し。

驗。小。山。崎。へ。戦。少。小。最。究。竟。の。不。多。り。十三日。ハ。これ。我。と。羽。柴。と。天  
 下。競。食。の。合。戦。を。ね。む。勝。利。不。向。り。天。中。も。合。ん。備。敗。北。小  
 及。び。あ。り。敵。は。不。當。場。と。逃。解。せ。る。勝。つ。戦。死。多。し。又。名。と  
 末。世。の。芳。記。小。筆。耕。り。ん。先。々。覚。悟。の。準。備。と。せ。ん。と。十一日  
 の。曙。未。放。り。麗。嚴。小。襲。束。あ。り。切。り。も。の。生。期。小。龍。顔。と  
 緋。一。た。て。ま。ん。と。黄。金。又。百。兩。白。帛。百。疋。綿。六。百。把。と。れ。の  
 獻。上。品。と。流。水。の。櫃。小。收納。せ。む。参。内。あ。り。久。我。宰。相。右。道  
 公。難。波。中。納。言。宗。豊。卿。兩。家。小。就。り。奏。聞。せ。り。龍。小。先  
 過。奏。さ。る。如。く。天。下。塗。炭。の。苦。と。救。え。ん。と。信。長。父。子。と。練。戦  
 たり。自。不。屑。を。り。國。政。と。願。掌。勝。將。軍。宣。下。小。あ。づ。り。り。  
 京都。の。執。権。朝。廷。の。衛。護。治。世。安。民。と。專。と。り。山。海。も。較。ぶ。る

山崎陣の時、位、強、龍顔、綽、奉



こと徳とさる朝恩と教トくまらんと思ふの外他思曾く  
 かり。然る小這適羽柴筑前守秀吉中國より馳参り。橋  
 州尾崎の城におりて織田の信家を呼集り。吊軍と催さん  
 こと。既小戦使と贈り畢ぬ。京都小おろし合戦せん。禁庭へ  
 の悲憤あるを憐る。山崎へ出張つらまら。有るの勝負と決し  
 めさん。陣小臨き死を先まら。喧のこるも武門の常期  
 経や山河をも極まら。大合戦小ひる身存亡も量ら。ト  
 義小光秀が今生の愼望。庶希へ龍顔を拜し。そまら。ト  
 存まら。一旦將軍さうら。ト。いまご膽作し。まら。強会  
 さ。只顧兩脚の所相奏め。光秀が不望。満ら。や。や。  
 預上た。まら。あり。と。落後あ。ら。小。察。り。う。兩脚哀憐。小

かなされければ。心裏の高嶽。決し。これ。所。不。豫。あり。と。拜。顔  
 備。も。只。凱。陣。の。後。小。と。と。執。奏。衆。と。の。勅。命。あり。これ。小  
 より。光。秀。も。力。あり。退。出。あり。室。町。の。陣。小。憐。ら。と。熱。く。思  
 惟。と。廻。り。小。備。戦。死。せ。ず。貯。へ。と。令。銀。財。寶。も。あ。ま。せん。  
 赤。勝。と。云。天。下。小。ま。ら。千。珠。萬。寶。意。の。隨。あり。つ。れ。小。も  
 せ。小。惜。む。小。あ。ま。と。仙。洞。女。院。三。公。九。卿。百。司。百。僚。女。官。小  
 中。で。貯。置。と。る。金。帛。と。會。され。小。星。進。し。を。れ。個。々。明。智。か  
 知。足。と。感。し。別。情。と。惜。され。け。る。其。外。緒。寺。緒。社。に。氏。小。ま。で。  
 あり。の。ま。ふ。布。施。し。然。し。其。日。の。未。小。至。る。當。天。諸。士。と。尽。頭  
 招。集。め。軍。の。分。擡。と。南。嶺。小。及。小。時。小。光。秀。重。され。と。や。ら。  
 徳。と。い。れ。も。覺。期。せ。る。這。般。山。崎。の。一。戦。へ。名。小。逢。小。秀。吉。と

敵とまぢれん是尋常の軍あり。然るにこの我既將  
 軍の織子存る。能令神戶信者もせし。我子向て  
 朝敵より。茲よりつゞ緒將と懋す。勝利と期せん。必  
 定あるぞ。万子むらも敗北あり。他子運使の悪名と流布  
 られ。屍と葬る地もわららん。備勝を獲へ羽葉と羽神の中  
 川丹羽池田織田小属せし。族のろ。西國の毛利。小國の  
 柴田。我子頭と下さる輩あり。造化より羽葉が首と得人  
 こと。這一戦のうらみあり。各借子努力と強し。後日の榮華  
 を懸念。只顧大持小軍。一個の高名と懐く。くゞ令勝  
 する。と專一とあり。捷をいづれも國主とあらん。が。輪るが當身  
 を失ふのころ。子孫をまを断絶まきき。この道理とよく記憶

られよ。と道理と錫して仔細解譯。勝軍の根柢を深し  
 させ。然るに后小酒宴と設け。諸士の心と悦ませられ。いづれ  
 も忠義の心をもち。誓ひよりあらず。安ん存てつづ  
 く。までも。主君と借小あま。と躍揚て馳せける。漸く陣  
 夜小迄。ぶころ。酒宴も罷り。かのが隨意陣屋。く小授け  
 底。光秀。静小。又ま。く一陣。勝あり。後黨全き。と独毛。  
 以先陣こそ簡要なれ。維をう。這任小。當べ。ん。と心小。撰  
 在りける。が。武勇。練。界。全。備。し。て。る。齋藤。内。藏。助。利。也。  
 これぞ絶倫の器量なれ。利。こ。越。輩。へ。あら。と。思。惟。と。決  
 一。曉。れ。六。月。十二。日。緒。將。と。列。し。て。部。位。を。あ。す。并。も。山。崎。の  
 地形と細く。東西。小道。二。條。あり。西。の。大。路。の。隊。伍。の。あり。あり。



中央を専一あれど。齋藤内藏助父子兄弟を合し小明智  
 十郎左衛門。紫田源左衛門。奥田宮内。同市助。後藤真二郎。  
 磯野彈正。阿閉法路守。多賀新五右衛門。鳥山之殿助。久徳  
 六左衛門。小川右衛門。池田伊藤守。その勢都合八千餘騎。左  
 隊伍不列りし。津田子之助。志水嘉兵衛。渡邊源左衛門。八徳田  
 信俊の孫。村上和泉守。山本對馬入道。進士作左衛門。伊勢安  
 房守。上野筑後守。杉原伯耆守。伊藤志摩守。古田権之助。  
 杉本主膳。その勢二千七百餘騎。右隊伍も。伊勢主水。飯沼  
 飛彈守。藤田傳右衛門。二枝之左衛門。同勘兵衛。櫻井新左衛門。  
 逸見重之允。香川刑部。その勢二千有餘騎。東の方の先  
 陣。八松田太助。左衛門。長河掃部。子息八助。妻木忠左衛門。

淡本表名流。波々伯部。権頭加治石見守。酒井孫左衛門。和田重助。  
 太田小源太。村上周防守。倭三千餘騎。列行。後陣。八陣地  
 明智日向守。光秀。備々列。是に従。小旗本勢。と。及兵  
 太史。藝元。同奉太史。藤次。明智。兵助。光次。中澤。豊後守。知獨  
 比田。帯刀。則家。村越。二十郎。景則。三宅。孫十郎。朝次。堀江。二。遊  
 瀧之。同。二。太史。貞教。隈。波。内。膳。恒。之。用。田。太。助。八。太。章。山。本。二。  
 左衛門。時。貞。倭。其。勢。八。千。有。餘。人。又。軍。合。合。一。万。七。千。七。百。餘。  
 騎。小。崎。當。て。推。中。長。園。有。天。神。山。の。茶。面。小。山。河。之。際。で  
 陣。構。え。り。正。魁。小。標。さ。る。九。本。旗。へ。水。色。に。拵。杖。の。花。号。中  
 之。四。本。鏡。の。馬。標。へ。河。風。高。く。吹。鳴。し。其。外。四。本。短。指。揮  
 せん。と。隊。系。隊。後。に。翻。らせ。黄。赤。白。の。視。け。る。使。番。の。門。に。

豊臣評六部卷之二

十一

馬牽付て大將の指揮を遷しと待交しとわらの勇士  
 難卒を静まると時ハ眠るが像く。動ぶる時ハ爆まると小  
 似く。至命小熟屬す。實に光秀が芳勲ゆて。是茶日  
 の隊列相なり。茲小亦日向守が縁より。情をうける紳士  
 あり。西の岡の任人金丸小傳次同舍身中治。この這  
 遭の事と傳聆。近郷の壯士。後陣輩より。田又千をり。駈  
 集め。山崎の陣小加たり。光秀これを大に悦び。兄弟  
 の輩と賞受あり。又千餘人の將とて。後陣の丸小備  
 させ。水色格段の旗をゆて。武流とせし。樹を暗標とて  
 衆兵に知らせ。大薩市之庄と軍艦とて。鳥銃隊伍小を  
 させ。茲小先陣中央の大將齋藤内藏助利三ハ光秀が

恩。身小割るを切て。是雖小遠邊の一戦を勝利ハ勿論  
 骨し。恩義小報ひのみ。心と輝ひ。あり。秋毫も  
 先陣の將小標を。浩く大持の場と安属する。秋毫も  
 困る。と。不工をめぐ。大八郎利次を。揚ぐ。信ひ  
 西より。小移る。備小陣中と指密脱。南方陣。の  
 敵陣と。懸く。角。懸置。それより。歩行移る。前  
 が備伍。法。廣。麓より。絶頂。と。觀察。大八郎  
 を。顔く。遠く。期。と。鳴。大。係。陣。構。と。揚。や  
 と。言。了。年。驚。色。も。なく。我陣へ。急。歸。舍。身。を  
 の。大。將。の。本。陣。小。到。り。言。状。を。伺。の。と。言。容。小  
 光。秀。も。底。事。を。對。面。と。れ。大。八。郎。利。次。意。し。る。や。

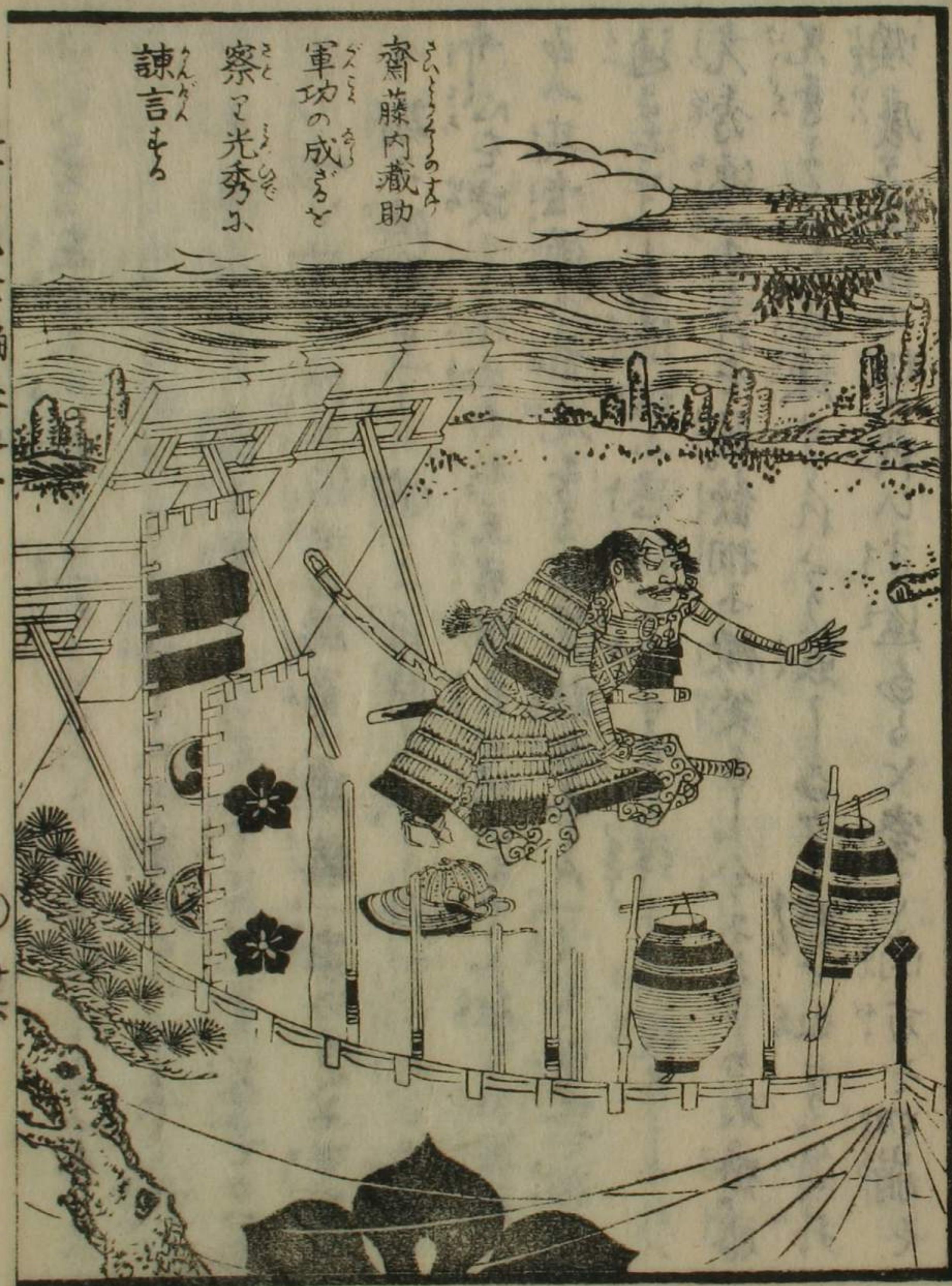
豊臣記六巻之二

一〇三

兄内藏助が口状をい。只今勢よく敵の陣と窺視す。三万は五千も  
 して高山中川池田野。其餘の隊は伍々の連獲し。舟駄を以て  
 自由を海ら。其が上の子と自方と稱せし。筒井が陣の跡を  
 視れば。全く自方の助勢あり。翻戦すべき相願わたり。然  
 るに自軍へ激勢せず。一端の威を以て。烏合勢の多  
 其の勢よく敵の利あり。翻戦す。自方の子の失あり。敵の  
 兵軍の名あれども。自方へ無名の戦あり。敵は三万の多勢  
 あり。自方へ一方の寡勢あり。筒井が一万敵に属して。自方へ  
 とれ不戦懸と生れ。定て筒井へ羽柴方へ内應せしを相遠  
 あり。とれ不よく。筒井が陣列。翻攻の相を願わたり。自  
 断あり。も自方の劣運。それ不翻打。敵兵は。自若くして

強勇ありぬ。是等の事。縁より。君知し。めす條あり。諸葛  
 亮も孫吳く説過し。楠延尉も韜畧を解讀す。子似んとも  
 軍へ始終の勝と専ら。あんどや一圖の恥。不遍られ。決戦の  
 を勇士との志き。利之愚意とめら。ま。一夜遠地を退き  
 玉ひ。京都をも亦棄られて。本國丹波へ退られ。山本を谷間  
 を破塞き。自由水を桂原に。然し。后不む。め。る。か  
 烈し。合戦。我遭も。あ。せられ。き。事。お。れ。も。不。亦。安。去  
 を。あ。られ。左。馬。助。光。俊。と。極。ぎ。玉。ひ。十。所。度。傍。の。光。親。と。合。隊  
 せさせ。縁。く。深。急。と。回。ら。され。き。坂。本。の。城。に。堅。固。守。智。勇  
 を。の。つ。く。款。を。代。ん。ふ。素。這。般。の。一。戦。ハ。秀。吉。一。個。の。鼓。合。を。れ  
 ば。會。集。り。し。緒。大。將。お。り。ひ。く。の。不。足。を。言。發。同。士。崩。せ。ん。と

齊藤内藏助  
軍功の成るを  
察し光秀は  
諫言する



必定あり。左右小内變の生むるものなり。一方彬一むふあり。南方より。自方へ勦力する大將も。又七輩はこれあり。或は駭率退屈し。落去輩もいらん。1は兄弟父子のり。這山崎を堅く防止。這地の勝負へ。齋藤一家のくく不安属り。命期不決戦とす。怖くは此時も早く。丹羽に州の両邊へ。赤心を決し。退出あれ。至君退去の地におつ。敵を拒迎戦い。至其準備の首尾するまで。敵兵ある一人も這地を踏踏。通さずと。道理不忠信を食む甘く。詳し傳説あり。先秀速一ふこれを聆。歎相不微笑す。今ふたれぬ齋藤兄弟よくこそ忠練せられ。然しあぐり。筒井順慶が。隊伍の相。戦い途ありと察し。南方を切崩に

氣と含めりか。あつた。抗疑と。何ぞ羽柴小勘まき。且示軍ハ。勢の多少。憑ぶ。大將の強意。憑る。丹羽池田。中川高山。海が軍動。我縁より。知り。怖く。曾。渠儀も疾より。我武勇の活き。覚悟せり。信孝ハ。未練の弱將。子々小兒。等しき輩あり。我今洲儀と。心と一中。攻着あふ。羽柴丹羽池田。中川其餘の輩。們。故。破らん。と。最易し。破此。あやむ。只先陣不。遠。當。強戦ひ。立功。最驕氣。小言。され。大八所も力あり。素情。蹴り。兄内藏。助。先秀の應。語り。利。大小。悲。至利。必勝の全策と。らひ

玉をぬくを懼怖れ然ハ乃丈今一息練言をべしと。本陣小  
引り日向守が着小出涙と流し練言をく脱子着  
大八舟ゆ。諫訴しすあせうと。容玉をぬを示  
推し稟し望も恐おられど千重の一失あるとゆて  
強し練言をすあせうと。這遭山崎の合戦ハ天下統裂  
の軍も勝得る時ハ海と山裡中。敗る時ハ自  
方の將士屍と掩瘞の地もあらん其表面小登らん  
と望まんより。後路小愁あらん練言をく願ひ存  
ぞるなを狂い愚見と信し玉を。然るに金勝あえ  
と。詞と長し。諫めたるは光秀嘗て用ゆる相あり。再度  
の諫言然言あり。我將軍の任は路踏り始て一戦を

臨む敵の矢一枚含味もせむ。去退くもの思量あり。孰  
光秀小降服をぐれ命運ハ是天小有り。強し稟さるは  
倭ハ後陣小隊位と轉せし。光秀自身。冠並し。羽柴  
が勢と逐頼さんと勃然と稟されし。利三心中大  
小苦悩。幾遭悲哭し。光秀の教と退去あり。陣小  
帰る兄弟共小。落涙をるる。雨の像く。君の命運を  
期迫し。三遭諫言容ざる。胸ハ身退くと言傳し。其ハ  
儒生の道あり。勇あり。義あり。言ふを。一度奉仕し  
其秘と遊ぶ。是勇士の道あり。這上ハ吾密く小一の  
計謀と徒し。日來の恩は報せし。然り。柴田  
源左衛門と招き謀略と謀合せり

